



企業探訪

激動の石油業界、堅実成長企業に迫る

株式会社キタセキ(本社宮城・岩沼市)は、北海道・東北から関東・甲信越・中部地方にかけて35カ所の営業拠点もしくはサービスステーション(ガソリンスタンド)・ネットワークを構える石油製品販売企業だ。昭和50(1975)年8月の創業から今年で44年目を迎え、なお成長曲線を描き続けている同社の原動力はどこにあるのか。



とが、全社員のモチベーションアップにつながっていると明かす。実績増進→事業拡大→社員のモチベーションアップと、成長企業特有の好循環が形成されていると考えてよさそうだ。

いな新人教育で必要な能力をしっかりと育成しているため、過度な心配は不要だろう。他方、宿舍の完備や新入社員向けのグアム研修旅行、またホテル利用割引や野球場の年間シートの無料利用など、新卒新入社員や若手が働きやすく充実した環境づくりに力を入れているのも大きな特徴の一つ

だろう。社員の日々の頑張りに対する感謝の表れでもあるそうした多様な福利厚生に通底するのは、「社員=会社」の精神で、社員が全員でより良い将来を展望し、会社のさらなる飛躍に向け一丸となって邁進していく土壌が備わっているということだ。今後の動向から目が離せそうもない。

代替がなされにくい「軽油」の販売が中心

石油業界は、かつて経験したことがないほど大きな課題に直面していると指摘されている。不安定な原油価格はもとより、需要供給がアンバランスであることに加え、脱・化石燃料の動き、ハイブリッドカーの普及やEV化の世界的な気運の高まりを背景に、今後ガソリンの需要減少が加速していくことが不可避とされているからだ。

こうした状況のもと、同社では将来を見据え、現在は大型トラックやバスなどの燃料であり、ハイブリッド化やEV化が難しいとされる軽油の販売を中心とする経営に重心を置いてお

り、現に軽油の売り上げが総売り上げの8割を超えているのだという。

社歴と伝統を誇る企業でありながら、設備の高度化や運営形態の見直しを積極的に推し進める柔軟さが同社の大きな強みの一つであり、商事会社や運送企業など、主要取引先からの信頼も厚い。

2,000坪以上の敷地面積 関東に超大型SSを新設

キタセキ社は平成30年、着実な営業実績の増進をテコに、実に2,000坪以上の敷地面積を有する超大型サービスステーションを関東地区に3カ所新設した。

現状維持に甘んじることなく事業を拡大していくこ

高校新卒者を積極採用 若手の育成にも注力!!

高校新卒者の採用を積極的に行っているのも、キタセキ社の特色の一つだ。職務内容は、車両への給油等の一般的なガソリンスタンド作業に加え、セルフサービスステーションでの給油方法・洗車施設の利用方法の案内や、コントロールブースでの給油許可、また店内来訪者対応や電話対応など多岐にわたるが、ていね

■学校法人石川高等学校(福島県)
【平成30年6月参加】
13社による合同企業説明会。参加した生徒たちが熱心に話を聞いてくれたため、時間を忘れて説明してしまうほどで、一人の採用へとつながった。話しやすい環境を作ろうとする高校側の配慮を感じる場面が随所にあり、とても助かった。

■青森県立青森中央高等学校(青森県)
【平成30年11月参加】
「ビジネスマナー講座」を実施。お辞儀の仕方などを取っ手から生徒たちが実行してくれた。保護者に対する感謝の話を多くの生徒がうなずき、子を持つ親の立場として目頭が熱くなってしまった。素敵な笑顔に接することができた。

■一関学院高等学校(岩手県)
【平成30年11月参加】
体育館を会場とする、大勢に向けたトーク形式だった。気温が著しく低い中、体育館で文句を言わずに話を聞く生徒たちの姿に感心した。一方、私を含めトーク担当側の意見がバラバラな印象があり、もう少し噛み砕いて伝えるべきだったかと反省した。

進路ガイダンス 参加のメリット

マナー講座形式や講演形式、合同企業説明会など形はさまざまあるものの、いずれの場合も生徒と直接面談できたり、話をすることができたりするのが「進路ガイダンス」の最大の魅力。大勢に向けた講演形式でも、話を聴く態度などからその学校の日常の様子や傾向がつかめるなど、情報収集ができる。また、ほかの企業と一緒に参加することで、他社のPRや指導方法がうかがえ、毎回勉強になっているのも確かだ。

■宮城県立亘理高等学校(宮城県)
【平成30年12月参加】
テーマはビジネスマナー。寒かったため暖房機器周辺に集まって聞いてもらった。内容を平易にしたため、むしろ退屈ではないかと懸念したが、最後まで集中力を切らすことなく聞いてくれた。保護者にお礼を言う約束を実行してくれたことを願う。

■山形県立村山産業高等学校(山形県)
【平成30年12月参加】
就職の心構えや企業が求める人材、ビジネスマナーなどについてスピーチした。講堂での実施で30人近い生徒がいたため、全員に声が届くか少し不安な部分があったが、非常に熱心に聴き入ってくれる態度に接し、とても感心した。

株式会社 キタセキ

創 業 昭和50年8月8日
代表者名 代表取締役 大川 輝己
資本金 1億円
売上高 1,420億円(平成30年6月期)
従業員数 350人
本 社 宮城県岩沼市相原3-1-6
営業所 盛岡、郡山、新潟、中部、支店(北海道、関東) サービスステーション35カ所(北海道6カ所、東北13カ所、関東15カ所、甲信越1カ所)

Journal's Eye 秋田県 新規高校卒業就職者・県内就職率、回復への道

◆県政による就職率上昇へ
秋田県は、2021年度の高校新規卒業生における就職者の県内就職率の目標を74%と定め、各種取り組みを実施している。

この目標値は、18年度から4年間の県政運営指針「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」の中で明示されており、「ふるさとの未来を拓く人づくり戦略」と銘打って、「ふるさと教育を基盤としたキャリア教育の充実」や、「地元企業等とのネットワークを活かした、社会の要請に応える専門教育の充実」などに向けた取り組みを行うもの。小学校・中学校・高等学校教育の中で発達段階に応じたキャリア教育を行うこと、高校から就職する生徒へのキメ細かな支援を行うことなど、多様な取組が盛り込まれている。

新規高卒就職者の県内就職率は、それら取組みの結果を反映する重要な指標と位置づけられている。この数値は、文部科学省『学校基本調査報告書』の県外就職率をベースに算出されるもので、直近の17(平成29)年度の報告においては、秋田県は66.9%となっている。

実は、同県のその数値は2003(平成15)年度は71.2%だった。しかし、08(平成20)年度には53.3%にまで低下。人口減少等の危機感が高

まる中、10(平成22)年度からスタートした「ふるさと秋田元気創造プラン」により、若年者の県外流出を食い止めようと本腰が入れられた。第2期プラン、そして第3期となった現在は、景気回復や地元志向なども手伝って、数値は上昇傾向を示している。

◆不十分な充足率に課題あり
厚生労働省労働局調査の数値にもその結果は表れている。同調査はハローワークにおける集計を用いるため、文部科学省の数値とは若干異なるものの、秋田労働局発表の2017年度新規高卒就職者(平成30年3月卒業)の県内就職内定率は68.4%で、13年ぶりに68%を上回る良好な状況となった。19年1月発表の今春(2019年3月)高校新卒予定者については、昨年の11月末現在65.6%で前年同期比1.3割のマイナスだったが、おおむね最近の好調な状態を維持していると言えそうだ。

とはいえ、充足率については、各産業ともに求人が増えているだけに低迷が続く。11月末現在の県内主要産業の充足率を見ると、サービス業で前年より3割上昇しているものの、他の主要産業は充足にはほど遠い。それらの回復には、時間とさらなる努力が必要なようだ。

人生100年時代 大学・専門職大学・短期大学・専門学校・企業等の職員&担当者がみなさんの夢の実現のために情報を提供!!

参加費無料/入・退場自由

自分の “生きかた” “働きかた” が見える

スタートアップ 相談会

スタートアップ…新しいビジネスモデルや市場を開拓するなど、会社を設立したり新規事業を立ち上げたりすること

起業 キャリア 仕事 資格

開催日程 山形 3/18日 新宿 4/11日 仙台 4/19日 札幌 4/22日 長野 4/22日 熊本 4/23日 大阪 4/25日 名古屋 5/8日 横浜 5/14日 土浦 5/24日 大宮 5/25日

特別企画 仕事・資格ゲーム(SDGs)・グループワークをしてほかの学校の人々と交流を深めよう!

アンケート・参加申し込みはこちら

主催:キャリア教育支援協議会 後援:大学新聞社 協力:ライセンスアカデミー 問い合わせ:03-5925-1641(土・日・祝を除く午前9:00-夕方6:00)